

40年以上の歴史を持つ

『第44回全国きき酒選手権大会 山梨県代表選考会』を開催

山梨県酒造組合（天野怜会長／組合員12名）は、9月6日、やまなし地域づくり交流センターにおいて「第44回全国きき酒選手権大会 山梨県代表選考会」を開催した。

この大会は、日本酒の魅力や文化を広く知ってもらうことを目的に1981年から続けられており、今年で44回目を迎える伝統ある催し。年齢・性別・国籍を問わず、日本酒ファンが参加できる。

きき酒競技では、大吟醸酒・純米吟醸酒・純米酒・本醸造酒・普通酒・生酒・低アルコール



味をききわけるため集中する参加者

酒の7種類を用意。第1回目のきき酒で好みの順に並べ、その後第2回目でも同様に順位をつける。両回でどれだけ安定して同じ順位をつけられるかを競う形式で行われた。

成績上位3名には賞品が授与され、さらに上位2名は、2025年11月に東京・大手町プレイスホール&カンファレンスで開催される全国大会へ出場する権利を得た。

当日は日本酒愛好家ら24名が参加し、制限時間内に味・香り・色合いを確認しながら7種類の山梨県産酒を見極めた。きき酒は繊細な分析力を要するため、参加者の中には体調管理を徹底し、冷静な気持ちで臨んだ人も多く、会場には張り詰めた緊張感が漂った。

天野会長は「ユネスコの無形文化遺産に『伝統的造り』が登録されたことも追い風になっている。これを契機に、日本酒を国内外でさらに知っていただき、楽しんでいただける機会になればうれしい。これからも山梨の豊かな水とともに、日本酒の魅力を発信していきたい」と語った。



担当：保坂